学校番号	１２０１

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史科	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	現代の日本史 改訂版　（山川出版社）						
副教材等	図説　日本史通覧（帝国書院編集部）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

諸事象の本質をその歴史的な形成･展開の過程の実証的な考察によってとらえる歴史的な見方や考え方を身につけ、歴史的な思考力の育成を図るとともに、国際社会に主体的に生き平和的で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養うことがこの科目の最終的なねらいである。

２　学習の到達目標

我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけ、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	歴史的・地理的事象に対する関心と問題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際化する社会に生きる個人として主体的に責任を果たそうとする。	歴史的・地理的事象から課題を見いだし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，効果的に活用している。	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し,その知識を身に付けている。
評価方法	・授業に取り組む姿勢 ・課題への取組状況	・授業の発言と発表 ・課題の成果 ・定期試験	・授業の発表 ・課題の取組状況と成果 ・プリントのメモ状況	・定期試験

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	第1章　開国と維新	1. 明治維新の背景 2. 西洋への開国 3. 政治秩序の崩壊 4. 王政復古と急進的改革 5. 新たな対外関係の樹立と内乱の終結	○	○	○	○	a:寺子屋など庶民教育機関の普及による基礎学力の定着や、儒教・国学・蘭学など学問を通しての人的交流に着目し、明治維新の背景に関心をもつ。 b:日米和親条約･日米修好通商条約の締結、開港による経済・社会の情勢変化に着目して、幕末の政局への影響を考察できる。 c:19 世紀前半に外国船が接近した理由を、世界史年表と地図から読み取ることができる。 d:公武合体、尊皇攘夷、倒幕の動きに着目して、権力構造の変化を理解できる。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
1学期	第2章　近代国家の形成と発展	1. 立憲政治をめざして 2. 憲法の制定と議会の開設 3. 東アジアの国際環境と条約改正問題 4. 清国との戦い 5. 藩閥･政党の対立と協力 6. ロシアとの戦い 7. 日露戦後の国際関係と日本	○	○	○	○	a:日清戦争や日露戦争が開戦に至った背景を、当時の世界情勢に着目しながら考えることができる。 b:藩閥・政党・軍部・官僚・元老の関わりの中から、立憲政治の特徴を考察できる。 c:条約改正が､法典整備など国内体制の確立だけでなく、英露対立を背景にして進展した点を考察する際、年表や地図を活用できる。 d:日露戦争における日本の勝利がアジア諸国の民族独立や近代化運動を刺激したことを理解できる。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

1学期	第3章　産業化の推進と国民生活の変化	1. 産業革命の進展 2. 資本主義の確立とその特色 3. 社会問題の発生 4. 国民文化の形成 5. 国民生活の変化	○	○	○	○	a:劣悪な労働条件に対する労働争議の頻発と社会主義運動の高まり、足尾銅山鉱毒事件などに関心をもち、社会運動への政府の対応に着目できる。 b:殖産興業政策を基礎に、金融制度など産業基盤の整備が進み、繊維産業の部門で産業革命が達成されたことを総合的に考察できる。 c:製鉄・造船などの重化学工業の形成、鉄道・海運の伸張、財閥の形成、寄生地主制の成立などを、相互の資料と関連づけて考察できる。 d:都市人口の増加に伴う疫病の流行などの問題点を含め、国民生活の変化を大きくつかむことができる。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
2学期	第4章　第一次世界大戦と大正デモクラシー	1. 第一次世界大戦と日本の外交 2. デモクラシーの高まりと政党 3. 国際協調と軍縮の進展 4. 政党政治の時代 5. 大戦中から戦後の経済と社会	○	○	○	○	a:労働争議・小作争議・女性解放運動・部落解放運動・社会主義運動など、さまざまな社会運動が起こってきた背景に関心をもつ。 b:第二次護憲運動・護憲三派内閣による普通選挙法・治安維持法の成立などに着目して政党政治を考察できる。 c:大戦景気による産業構造の変化や労働者の増加など社会構造の変化について、グラフなどを活用して考察できる。 d:大正政変以降、デモクラシー思想の浸透により、政党勢力が国民統合の中心的役割を果たしていく過程を理解できる。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

2学期	第5章 第二次世界大戦と日本	1. 昭和恐慌 2. 協調外交のゆきづまり 3. 満州事変から国際的孤立へ 4. 軍部の政治的台頭 5. 中国との戦い 6. 第二次世界大戦と世界新秩序 7. 太平洋戦争 8. 日本の敗北	○	○	○	○	a:満州事変から国際連盟の脱退に至る日本の国際的孤立の過程について、国内外の対応に関心をもつ。 b:山東出兵や統帥権干犯問題など軍部の政治的進出を背景に、協調外交から積極外交へと転換していく過程を考察できる。 c:日中戦争の長期化に伴い、進められた戦時体制下の経済統制と国民生活など、グラフや資料から考察できる。 d:総力戦体制の構築に向け、政党や労働組合をはじめとする諸組織を改編・統合していったことを理解できる。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
2学期	第6章 占領下の日本	1. 占領政策の展開 2. 戦後民主主義の定着 3. 政治・経済の再建 4. 独立の回復	○	○	○	○	a:戦後の急激な価値観の転換に興味をもち、国民がどのようにそれを受け入れていったか考えられる。 b:サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義と、日米安全保障条約の締結の意義を考察できる。 c:戦後、復活した政党政治と、インフレーションの抑制、生産復興のためにとられた経済諸政策を、国民生活の状況と関連づけて考察できる。 d:日本国憲法が制定された経緯と意味を考え、理解することができる。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

3学期	第7章 日本の自立と経済成長	1. 55年体制の成立 2. 安保体制下の日本 3. 高度経済成長の光と影	○	○	○	○	a:耐久消費財の普及による豊さの享受、流通網・交通網の整備、技術革新が進む一方、農村の過疎化や公害問題などの社会問題にも関心をもって注目できる。 b:冷戦構造下の日本で、55年体制により安定した保守政権が成立した意義を考察できる。 c:MSA協定・新安保条約・日ソ共同宣言・日韓基本条約・LT貿易などの史料から、外交・政治の再編過程を読み取ることができる。 d:新安保条約・日韓基本条約・沖縄返還問題・日中国交正常化などを取り上げ、外交・政治の再編過程を把握できる。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
3学期	第8章 現代の世界と日本	1. 激動する世界 2. 国内政治の再編成 3. アジア・太平洋地域と日本 4. 21世紀の課題	○	○	○	○	a:テロに対する日本政府の基本姿勢や地球環境問題に対して、日本国民としての自覚をもって取り組める。 b:バブル経済や平成不況へと進んだ経済状況などを取り上げ、考察できる。 c:歴史的な過程を考慮しながら、実際の新聞やニュースから現代の課題を読み取ることができる。 d:冷戦終結のあとも、世界各地で民族紛争や宗教対立に起因する武力紛争が頻発した状況と、日本の貢献について理解できる。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。